



風水害に備えて水防工法を学ぶ
第55回鬼怒・小貝水防連合体水防訓練

「第55回鬼怒・小貝水防連合体水防訓練」が7月6日、常総市新石下地先の鬼怒川左岸（石下橋下流）の河川敷で行われました。

台風や集中豪雨などによる水害の発生が危惧される時期を迎えるにあたり、水防の重要性を理解し、水害等から住民の生命財産を守るため、本市のほか、つくば市、常総市、つくばみらい市、八千代町の水防関係者約200人が参集し、合同で訓練が実施されました。

訓練は、水防工法の知識の習得、技術の体得を目的に、県常総工事事務所と土浦土木事務所の指導のもと、「木流し」「シート張り」「折り返し」「五徳縫い」「積土のう・月の輪」が実施されました。

今年4月から消防団員となった第4分団の大島雅志さんは「新しいことばかりだったが勉強になった。普段の訓練からチームワークを生かして対応したい」と話してくれました。



水防工法「木流し」の体得に真剣な団員たち



水の上を歩くウォーターバルーンに親子でチャレンジ

砂沼サンビーチで7月13日、日本青年会議所が主催する「茨城アドベンチャーアイランド」が開催されました。市内外から小学生や家族連れなど約2,000人が来場し、オープン前のプールを一早く楽しみました。

当日の目玉イベントで、砂沼サンビーチ全体を舞台にした宝探しゲーム「トレジャーハンティング」では二人一組で600人が参加。触覚・味覚・聴覚・視覚・嗅覚の五感を使って解くクイズに正解を重ね、最終関門まで残った24名には県内各地の特産品が賞品として贈られました。

上位に残り賞品を獲得した筑井よし子さん・落紗さん（東部中・2年）親子ペアは「家族みんなで参加した。問題は難しかったけれど、楽しかったし、来て良かった。夏休みもサンビーチに遊びに来たい」と嬉しそうに話してくれました。

プールでテンション最高潮
茨城アドベンチャーアイランド



下妻市の特産品に舌鼓を打つ来場者たち

都内で下妻市の特産品・観光PR
茨城県人会連合会総会・懇親会

東京都およびその近郊に在住・在勤する茨城県出身者で組織される「茨城県人会連合会」の総会・懇親会が7月4日、東京都文京区の椿山荘で開催され、各界で活躍する関係者約500人が参加しました。

県内の市町村や観光・物産関係組織など39団体が出展する中、下妻市の出展コーナーでは、稲葉市長や野中副市長がビアスパークし、もつまの地ビールをはじめ、梨のリキュールやウイマムの飲むヨーグルト、手作りウィンナー、下妻産のきゅうりやトマト等の特産品を紹介し、砂沼サンビーチやしもつま温泉などの観光情報と合わせて盛大にPRしました。

しもつまビールのレッドエールを飲んだ50歳代の男性は「ビールの味が濃くて香りがいい。ビール好きにはたまらない」と話してくれました。

テレビでも注目「下妻の梨」

「磯山さやかの旬刊! いばらき」テレビ収録

茨城県鉾田市出身で「いばらき大使」を務める磯山さやかさんが、茨城県内の観光スポットなどを歩きながら、いばらきの魅力と旬の話題を伝えるテレビ放送「磯山さやかの旬刊! いばらき」で「下妻の梨」が取材を受けました。

磯山さんは、道の駅しもつまの農産物直売所で、8月1日に新発売となる下妻甘熟梨入りカスタード大福「下妻のおもて梨」と、下妻産あきづき使用「梨のリキュール・プレミアム」を紹介。梨畑では、摘みたての「下妻の梨」をほおぼり、「みずみずしくて、おいしー」と笑顔でした。

【放送日】8月22日（金）午前10時25分頃～
テレビ朝日「若大将のゆうゆう散歩」内



梨畑でのテレビ撮影で「下妻の梨」を紹介する磯山さやかさん



親子で作業を分担して、楽しく調理しました

7月13日、食育を推進する視点から「料理ができる力」を身につけ、家族と一緒に楽しく料理を作ることで家庭生活での男女共同参画の促進を図ろうと、千代川公民館の調理実習室でファミリークッキング教室を開催しました。

参加したのは、市内の小学生親子など6組16名。手軽に作れる料理をテーマに「ドライカレー」「とろろこしごはん」「サラダ」「フルーツラッシー」を、市の管理栄養士を講師に食生活改善推進員の指導を受けながら、家族で協力して作りました。

「上手に切れたよ」と、野菜のみじん切りに悪戦苦闘しながらも、楽しそうに親と会話する子どもや、父親に身振り手振りで野菜の切り方を教える子どもの姿などが見受けられました。

参加した保護者は「子どもが自ら進んで作ってくれました。今度は家で一緒に作ります」などと話し、子どもと協力して作った料理を楽しそうに食べていました。

親子でクッキングにチャレンジ
男女共同参画・保健センター食育共同事業

宝くじ助成事業でコミュニティ活動を推進
行田自治会

行田自治会で、平成26年度宝くじの助成を受けて購入した子ども神輿と太鼓が奉納されました。新調前の子ども神輿は、明治時代に地区住民が手づくりで作成したもので、老朽化が著しく、地域の活性化のためにも新しい神輿や太鼓を望む声が高まっていました。

7月20日、恒例の夏祭りには、新しい神輿を一目見ようと、大人から子どもまで大勢の地区住民が集まり、盛大に神輿渡御が行われました。

飯塚宣夫代表区長は「新しい神輿をきっかけに、夏祭りに参加する人も増え、地域が盛り上がりあってうれしい」と笑顔で話してくれました。

この助成は、宝くじの社会貢献広報事業としてコミュニティ活動に必要な施設や備品を整備するために行われるもので、行田自治会では夏祭りなど地域の伝統行事を通じて地区住民の交流を深め、地域の活性化を図っていかうとしています。



新しい神輿を担いで地区内を練り歩く子どもたち

有料広告欄

有料広告欄